

【ポスター発表】

## 福祉系大学生の障害者および高齢者に対する態度について

—10年前の学生との比較—

○ 金城大学社会福祉学部 岡村 綾子 (3446)

キーワード：障害者、高齢者、態度

## 1. 研究目的

社会福祉系大学の開学初年度より新入学生を対象にボランティア等の社会福祉に対する態度に関して質問紙調査を行ってきた。また、学年進行に伴い態度の変化もみられるため、学年進行の都度同様の質問紙調査を行ってきた。今回の報告では、10年前の学生と現在在学中の学生を対象に、特に障害者と高齢者に対する態度について検討することにした。

## 2. 研究の視点および方法

研究の視点：入学以前と入学以後における障害者や高齢者に対する態度の変化や違いについて、ボランティア活動の経験の有無や、障害者や高齢者に関する知識の取得の有無との関係から検討する。

研究方法：調査対象 A福祉系大学における2003年度の2年生と2013年度の2年生とした。調査対象者数は、2003年度の学生175名（男性74名、女性101名）、2013年度の学生148名（男性39名、女性109名）であった。調査内容 ボランティア活動の経験の有無、ボランティア活動を始めた動機、障害者や高齢者に関する読書経験の有無、障害者や高齢者に関するビデオ等の視聴経験の有無、障害者や高齢者に対する態度、ボランティア活動に対する考え方などについて調査を行った。調査方法 年度初めのオリエンテーションの機会を利用して質問紙を配布し、自記式集合調査をした。

## 3. 倫理的配慮

調査対象者には、研究の趣旨と内容、得られたデータは研究目的以外には使用しないことについて事前に説明した上で調査への参加を要請し、調査参加をもって研究協力受諾とした。また、調査結果においては検討・分析に際して個人が特定できないように配慮した。

## 4. 研究結果

入学以前にボランティア活動の経験がある者は、2003年度の学生が76.0%、2013年度の学生は65.5%、入学以前に障害者に関する読書経験がある者は、2003年度の学生が76.6%、2013年度の学生は54.7%、高齢者に関する読書経験のある者は、2003年度の学生が40.6%、2013年度の学生は29.7%であった。また、入学以前に障害者に関する映画やビデオの視聴経験のある者は、2003年度の学生が77.8%、2013年度の学生は64.9%、高齢者に関する

視聴経験のある者は、2003年度の学生が58.3%、2013年度の学生は42.6%であった。

入学以前および入学以後の障害者・高齢者に対する態度については、これまでの報告に倣い、「積極的理解」「消極的理解」「拒否」の3項目に質問の選択肢を分類し、比較検討を行った。入学以前の障害者に対する態度については、2003年度の学生は、積極的理解41.8%、消極的理解22.5%、拒否35.7%であり、2013年度の学生は、積極的理解46.7%、消極的理解25.1%、拒否28.2%であった。また、入学以前の高齢者に対する態度については、2003年度の学生は、積極的理解67.9%、消極的理解23.2%、拒否8.9%であり、2013年度の学生は、積極的理解69.1%、消極的理解24.5%、拒否6.3%であった。

入学以前のボランティア活動の経験の有無と合わせてみると、入学以前にボランティア活動を経験していなかった学生の障害者に対する入学以前の拒否の態度を示したのは、2003年度の学生は46.2%、2013年度の学生は31.1%、高齢者に対する入学以前の拒否の態度を示したのは、2003年度の学生は10.4%、2013年度の学生は7.5%であった。

入学以前の対象者に関する読書の経験の有無と合わせてみると、入学以前に対象者に関する読書の経験していなかった学生の障害者に対する入学以前の拒否の態度を示したのは、2003年度の学生は52.5%、2013年度の学生は34.3%、高齢者に対する入学以前の拒否の態度を示したのは、2003年度の学生は9.7%、2013年度の学生は7.1%であった。

入学以前の対象者に関する映画などの視聴経験の有無と合わせてみると、入学以前に対象者に関する視聴経験をしていなかった学生の障害者に対する入学以前の拒否の態度を示したのは、2003年度の学生は50.0%、2013年度の学生は35.8%、高齢者に対する入学以前の拒否の態度を示したのは、2003年度の学生は9.7%、2013年度の学生は4.7%であった。

## 5. 考察

2013年の結果は、2003年に比べて障害者や高齢者に対して関心がやや減っている。それは、障害者や高齢者に関する読書の経験や、障害者や高齢者に関する映画などの視聴経験は、2013年度の学生より2003年度の学生に多くみられたことに表れている。しかし、2013年度の調査集団には、2003年度とは異なって保育士養成課程の学生が含まれていたのが影響したと考えられる。2013年度の学生には、保育士養成課程の学生が全体の3分の1以上を占めている。2003年度の学生の中にも子どもに関心のある学生はいたが、どちらかという障害者や高齢者（特に高齢者）に関心のある学生が多かった。しかし、保育士養成課程の学生の一番の関心事は子どもであることから、2003年度の学生より障害者や高齢者に関するボランティアをしたり、障害者や高齢者に関する読書をしたり、障害者や高齢者に関する映画などの視聴経験や知識を得たりすることが少ないと考えられるからである。

したがって、結論としては福祉だけの学生では著しい違いは認められなかった。